



かつての古き良き習慣

「ぼく、角のタバコ屋で 「いこい」 ば 買って来てくれんね」

「今日、家ば留守するけん、頼むね」

「屋根に上るけん、ちょっとハシゴば支えとって」

「買い物に行くなら、ついでに買うて来て」

「醤油がのうなったけん、貸して」

私の幼少の頃、毎日行われていた助け合いです。

「ありがとう、カステラ食べんね」

「助かった、これお土産たい」

「きつかったね、ご飯食べていかんね」

「ちょっと少なかばってん、みかんのおっそわけ」

「良かったら、テレビ見ていかんね」

そのお礼として、かえってきた言葉です。

お互いの関係を認め合い尊重し、お金がなくても安心感と心豊かに生きる
思いやりがありました。

昔、自然に行われていた、「活かし愛、助け愛」 日本人の中に眠っている
つながり DNA の復古が今こそ、必要なのです。

デジタルインフラを有効に活用することで今の時代にあった実現が可能です。

今の時代にあった「活かし愛助け愛」⇒感謝のポイントがつながり広がる絆

今、蘇る、ひとりひとりの繋がりとしあひあい。安心と勇気、自立と仲間、
愛は国境を越える そして some money

経済至上主義とお金の性格

本来、お金とは物やサービスの入手手段として、その価値に相当な代替として流通
する便利な媒介物でした。

しかし、いつしか貯蓄、運用という現実経済とは違う世界にお金が使われ、増殖さ
れ、通信で世界をめぐり、富が集中し、国家の意思をも左右されるようになり、
お金がなくては生きていけない世の中に変貌したのです。

経済の規模を適正に維持し、社会的破綻を起こさないためには、国や雇用に依存し

ないでも生きることが出来る、助け愛のネットワークが必要です。

感情のない数字が全てのマネー経済に対し、個性と意思を持つポイント交流（未市場経済）が底辺を支えます。

昔の、自然なありがたいの行為は、人を守り、活かし、育て、希望と勇気づけました。いま、それに戻ることはできません。今日の日は昨日までの歴史の流れの中で進むしかありません。

マネー争奪競争から助け愛活かし愛、育み愛、励まし愛の称赞文化を築こう！

人と人との感動の交流、感謝ポイント交換=電子個性通価

電子個性通価への道標

88～94 年 異業種交流会主催運営

89～92 年 高度情報化社会研究プロジェクト

90～95 年 ビジネス情報紙発行／91～94 年 C I コンサル

95～97 年 情報流通販売 FC／99 年農水省電子御用聞きプロジェクト

99～07 年 総合ネットワーク通販 F C

2000～2011 年 ふれあい情報流通推進協議会(コミネット構想)

※2005 年 ポイント携帯交換体験に衝撃とイメージ広がる

2010 年 電子個性特許取得

2012 年 電子個性通価プロジェクト発足 サイト公開

2013 年 システム設計完了

2014 年 アマゾンより電子書籍「電子個性通価っていいね」公開

2015 年 対外的な構築広報活動開始

電子個性通価とは？ 1

地域通貨の良いところ、デジタルポイント管理の良いところ、

SNS の良いところ、そして実践異業種交流の共有&統合施策を

合体した全業種対応スパイラルマーケティング戦略です。

自分の個性（思いやり, 智恵, 経験, 汗などの価値）を数値化し、

助け愛、活かし愛、育み愛、励まし愛を通じ褒め文化を創っていく

感動のコミュニティ通価・ICT システムです。

通価”は貨幣の通貨でなく通じる価値を運用するという意味の造語です。

電子個性通価とは？ 2

日常生活における助け合いと、その感謝度をポイントで表現します。

交流&コミュニケーションの感動の履歴です。

ポイントは個性を表現し人格を称え且つ引き上げます。

ある人は助けられ世の中から引き上げられます。ある人は徳を積んで後世まで称え

られる貯徳通貨と言えます。

人を活かし生活を支える新しいライフライン。

未市場のポイント化は経済を活性化します。

まずは0からスタートします。プラスになるもマイナスになるOK！

子々孫々に生き様を伝え異次元で交流する人類の智慧と歴史の伝承。

電子個性通価とは？ 3

個人に関する情報の集積を個自身が運用できる手段によってできた信用基盤を根拠とした「価値」を評価し交換し合える“通価”を実現するものです。

電子個性通価の目的

- 繋がりの復活
- 個人の自立
- 地域活性化
- 国民総幸福度世界一へ
- 称賛文化と世界の喜軸通価創り
- 通貨の流れが変わるとき人類の魂が進化する
- 世界の平和、繁栄を日本人主導で！



電子個性通価の社会的成果物

- 1、老若男女全員参加型生涯現役共助社会の実現
- 2、感動市場による一人雇用創出自立社会の実現
- 3、国や地方行政の福祉コスト削減
- 4、コストゼロ日常相互教育による志人財排出
- 5、購買力向上による経済活性化と税収増
- 6、詐欺ビジネスの撲滅

7、埋もれた人財、良いモノに光を！

8、悪質プロパガンダ有害低俗マスメディアの終焉

立場で変わる電子個性通価システム

- 個人にとっては「自立のためのSNS」
- 商売人にとっては「繁盛ツール」
- 企業・団体にとっては「社会貢献型CGM(顧客生成メディア)」
- 地域にとっては「産業活性化と税収増」
- 行政にとっては「社会保障費削減施策」
- 国にとっては「1億総活躍社会・日本復活への政策」
- 世界にとっては「日本発、平和を齎す世界の喜軸通価」

電子個性通価システムの真理

人の本来の喜びは自己成長と貢献。

''ありがとう''と言われる事に最大の喜びを感じるのです。

その''愛を刻み残し、皆が知り称え続けること''ができれば、もっと人を助ける事が楽しくなるだろう。

コミュニティ感覚と遊び心と実用ライフラインとして息づく日本発SNS、これが電子個性通価システム。

起業理念

電子個性通価は

- 1、地域通貨の良いところ
- 2、デジタルポイント管理の良いところ
- 3、SNSの良いところ

をドッキングし

実践異業種交流の共有と統合パワーを
システム化した

多業種対応スパイラル経営戦略であり
人と人との称賛文化の創造であり

日本復活のソフトパワーを確立します。

世界の喜軸通価として世界の争いをなくし
人類の格向上を目指します。

ユビキタス社会の必須アイテム！ **人が人として生きる車の両輪！**
個性を活かす感謝ポイント
「電子個性通価」



通価交換の例

- おじさん +15000P
+1万P 人生相談+5千P 家庭教師-3千P 庭掃除+介護支援 3千P
- おばあさん +6000
+4千P 子育て相談-2千P 買物支援+4千P 裁縫手伝い
- パソコン主婦 -2万P
-1万P 起業支援-4千P 子育て相談-3千P 裁縫依頼-3千P 力仕事
- アイフォン太郎-1000P
+5千P 引越し-3千P 英会話-1千P 定食-2千P 古着購入

※+P はしてあげた事 -P はしてもらった事

徳積明と脛梶未来さん



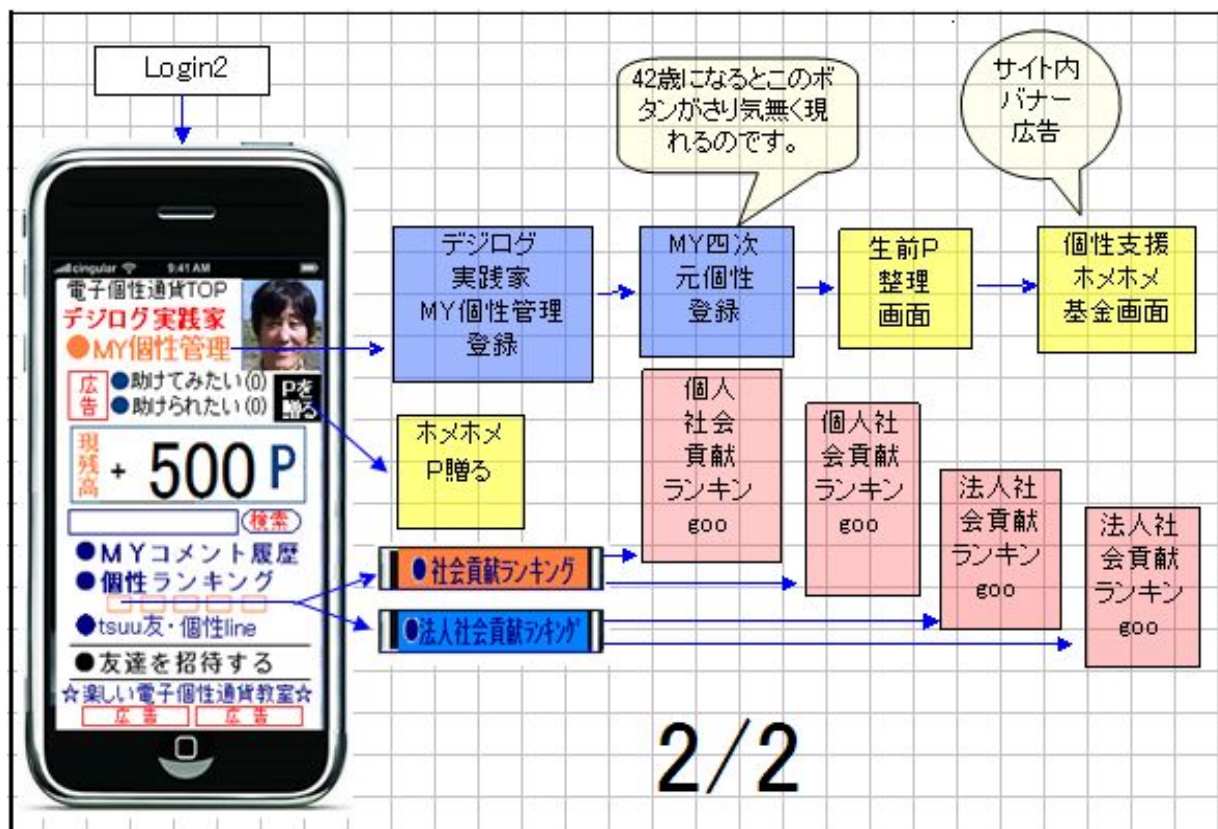
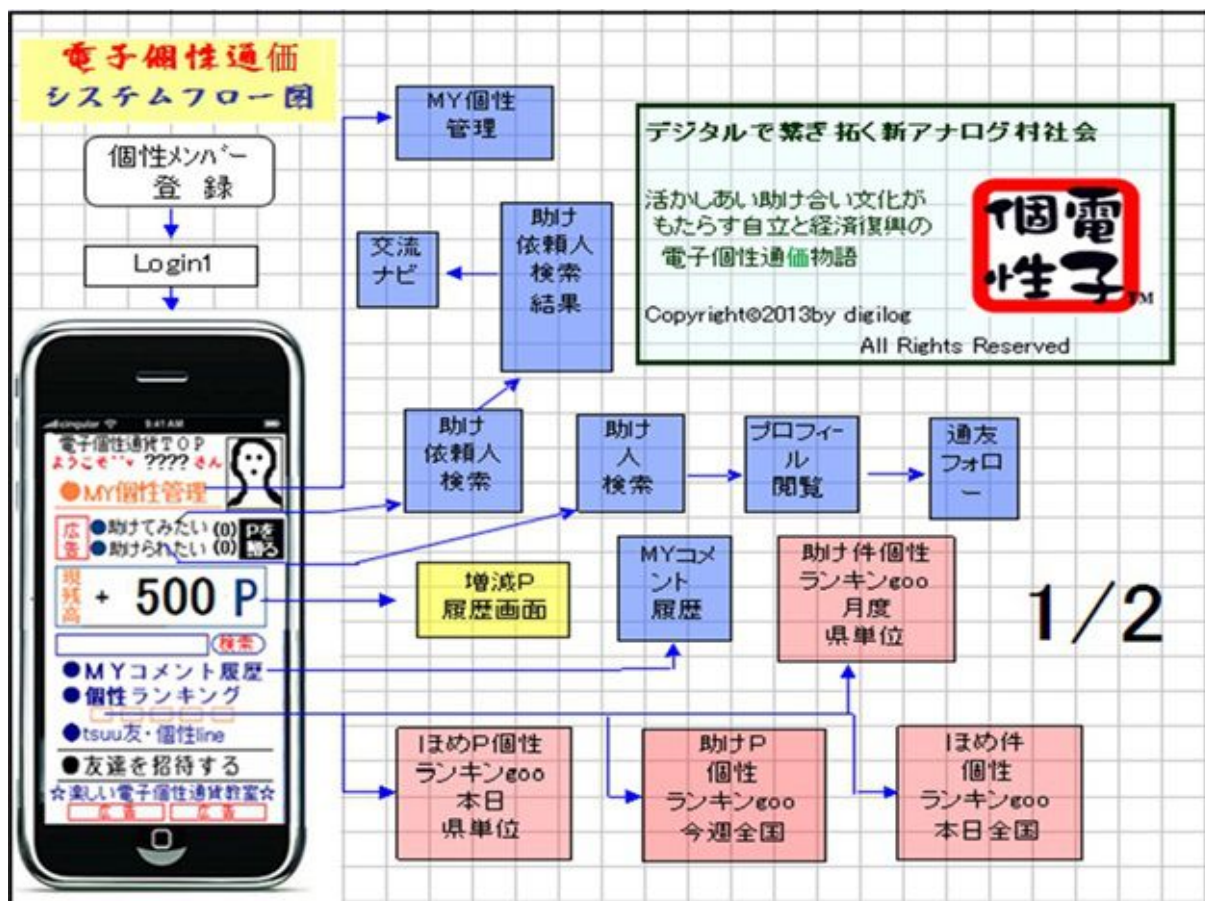
図は、登録者のスマホ画面の中の管理画面イメージです。

数字は現時点でのポイント収支の数値です。

黒数字は感謝された度合いです。人を助け尊敬に値します。

赤数値は人に感謝し助けられた人です。ある意味、将来を期待されている人です。

その他、過去の履歴で自分を見つめなおしたり、気になる人をフォローしてその人の履歴を垣間見ながら、生きざまに勇気付けられたり、励まされたりできます。



電子個性通価まとめ

自分の能力を発揮することで生活の糧を得て仕事のレベルも上がります。

頑張っている人が世に出る仕組みです。

無駄な支払いが減り、可処分所得が増し必要な消費に回り本当のプロが育ちます。

徳を積むレベルの方から、どうやって生活しようかの層の方まで、自然な日常で交流できる、活かし愛、助け愛のSNSです。

業界別企業&団体、一定エリア内で運用。

個人、企業、団体、地域が繋がり、そして世界へと展開します。

人と人との感動の交流から、モノとの連動も可能です。

特許「電子個性」の通価版システム化で情報の信頼と広がりが築けます。

電子個性通価 Q&A 1

・どうやって使いますか？

⇒PC、携帯端末からWEBとアプリを使って、MY 管理画面に入って使います。ユーザーは無料です。

・交流する人はどうやって知るのですか？

⇒内部検索です。このシステムは利用者自身のポイント管理、履歴、ポイントメニュー公開を行う広義のSNSです。利用者の意思で自身の個性の管理、公開は柔軟にできます。

・登録は実名ですか？

⇒実名、ニックネームどちらでもどうぞ。ただ、交流を通じて必要な相手には実名で活動する必要があるでしょう。実社会と変わりません。

・永久登録とありますが？

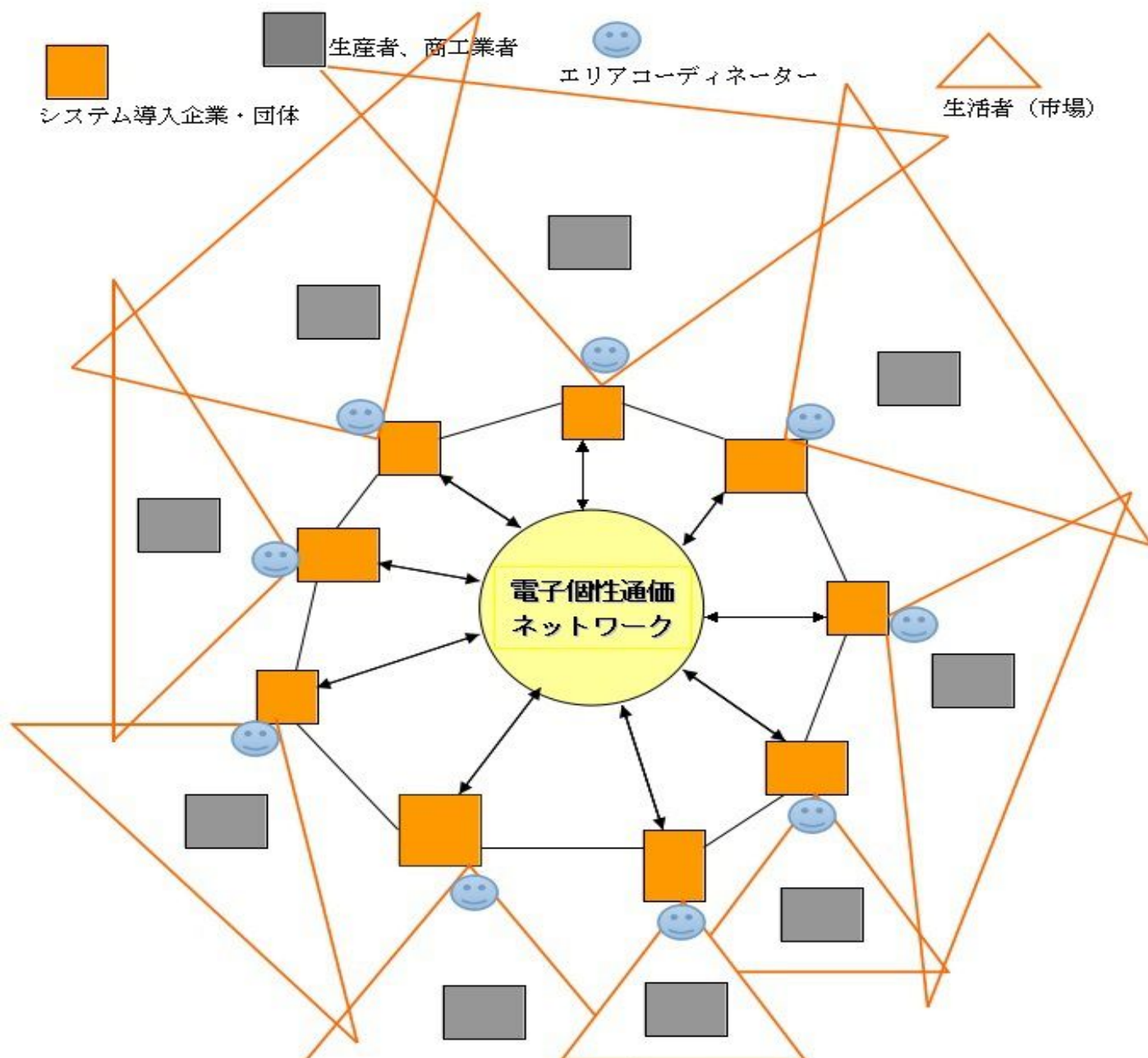
⇒自分の生きざま、ポイント履歴を後世に残したい場合はお亡くなりになってもサーバー上では永遠に生き続けます。多くの感謝、功績はいつまでも称賛され続け後世へ魂の伝承が出来ます。

・どうやって普及するのでしょうか？

⇒企業、団体の繁栄ツール

C G M（消費者生成メディア）、自社S N Sという位置づけで、業界別、エリア別にシステムを導入します。

⇒各房をループ的に繋いでいきます。個人は登録の入り口が違えど、どこから登録しても、その内容は同じです。



電子個性通価ネットワーク異業種交流価値統合イメージ

- *個人の能力を生かしあう広域通貨ポイントシステムで地域活性化
- *安心して暮らせる助け愛社会で社会コスト削減
- *老若男女、和気あいあい、楽しいふれあい、助け合い、活かし愛空間
- *伝えたい情報がローコストで喜ばれて伝わります
- *市場の共有、ネタの共有、現実事実の感謝行動データベース

世界通価樹木園構想

これは上から1本の木を見たイメージです。この通価の木は日本の木、そしてこの通価樹園はこれから国の数だけ、どんどん植わって行きます。でも、地中での根っこはみな繋がっているのです。日本の次は、北米、ヨーロッパ、アジア

電子個性通価 Q&A 2

・エリアコーディネーターとは何ですか？

地域に住み、地域を愛し、地域を良くしたいと切に思う社会起業家であり商圈（個人、企業、行政、商材、サービス他）をまとめる地域活性化プロデューサーです。

まずは各県に1名～、そして全国合計100名を第一次募集します。

エリアコーディネーターは集客不要、ライバル不在。アイデアを駆使し地域活性化に貢献してください。

・エリアコーディネーターの業務を教えてください

エリア版メルマガ発行

エリア内の埋もれた商品、サービス、人財の発掘、支援

エリア内の登録者へのサポート

OEM企業コンサルティング支援

エリア内異業種交流会の主宰

他エリアコーディネーターとの連携企画立案実行

他、エリア活性化につながる独自企画の立案実行

※企画はアイデアの数だけ生まれます。15P～は一例です。

エリアコーディネーター申請は電子書籍をお読み頂き600文字以内で感想分を頂きます。電子会議室での交流を経て認定されます。

電子個性通価の現状と計画

H22 年 10 月「電子個性」国内特許取得（H12 年総務省助成金にて開発）

H24 年 9 月「電子個性通価」サイト公開

H25 年 10 月「電子個性通価」システム基本設計終了

H26 年 9 月電子書籍「電子個性通価っていいね」アマゾンから公開

H27 年 5 月エリアコーディネーター会議スタート

H27 年 11 月電子個性名刺スマホサイト開発、米国担当準備に向け出発

新法人(株式会社)にてシステム開発

新社団法人にてシステム運用

NPO 法人日本挑戦者ネットワークにて啓蒙、エリアコーディネーターの育成、認定。

各県に 1 名以上エリア運営ディレクターを育成。

システム構築後は企業、団体、グループ、行政、企画別の各システムを OEM 供給

世界視野、多言語版計画あり

電子個性通価の収益構造

WEB やアプリ内の広告

メールマガジンによる広告配信

発掘商品の販売、委託商材の広報収益

アンケート収集などの分析収入

ブランド開発、有能人財、企画の事業化と促進

OEM 供給企業団体他へのシステム利用料

(OEM 運用組織自身は上記の報酬システム他を共有します)

寄付によるポイント交換(寄付金は会員サービス企画、協働事業に利用)

データベースの二次加工、編集による情報サービス

電子個性通価システム提供例

全国展開企業団体向け/業界独り価値/電子個性通価 OEM 版

一業種一社限り、全部で 10 社前後を予定

エリア別地域創生展開企業団体向け/エリア独り価値/電子個性通価 OEM 版

一県一社以上、第一次募集は全国 50 社前後を予定(業種問わず)

キャラクター所有/全国展開企業、団体様

キャラクターの数だけ企画ありも一次募集は 10 キャラクターを予定

電子個性通価システム提供業界例

企画別展開企業団体向け/電子個性通価 OEM 版

※このオンリーワンモデルは業種、企画、アイディアの数だけ生まれます！ ↓(例)

日本ようこそオモテナシ通価モデル(旅行業界)

必勝選挙草の根共鳴通価モデル(政治家・政党)

農業の六次産業化通価モデル(農事法人)

相互扶助共済通価モデル(共済サービス業界)

音楽文化振興通価モデル(音楽業界)

高齢者支援と買い物デリバリー通価モデル(配送業界)

再生エネルギーと農業振興による地域創生通価モデル(エネルギー業界)

国際協力支援ソフトパワー通価モデル(海外支援団体、NGO 向け)

地域創生コミュニティ通価モデル(キャラクター、特産物企画)

特定地域洗脳プロパガンダ救済通価モデル(マスコミ業界)

スポーツビジネスコミュニティ通価モデル(スポーツ業界)

心と調和実践教育通価モデル(教育産業)

高齢者介護DAYサービス支援通価モデル(介護業界)

趣味サークルネットワーク通価モデル(新C2C産業)

笑顔の御用聞き隊営業連携通価モデル(リピート商材販売支援)

災害、復興ボランティアマッチング通価モデル(人材派遣業界)

実践異業種交流のスパイラル通価モデルモデル(情報産業業界)

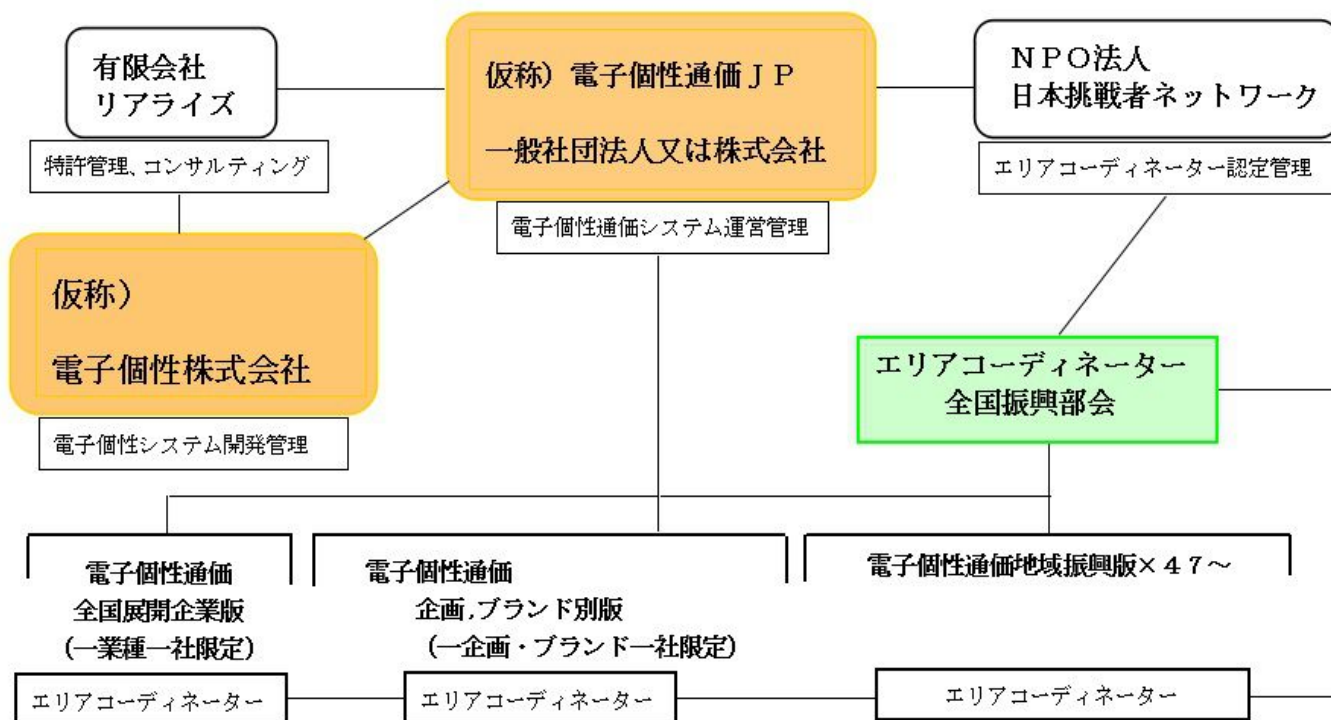
仮想通貨ネットワーク立体事業化モデル(仮想通貨業界)

食育からの子育て支援ネットワーク通価モデル(育児業界)

離島、過疎地の応援通価モデル(行政、及び観光産業界)

1 億総活躍社会エリア構築通価モデル(行政・市町村)

電子個性通価／関連組織図



人財発掘、教育、商材発掘、広報、イベント、エリア間企画交流、メルマガ、広告戦略、販売支援 ベンチャー・事業支援、ボランティア福祉支援、行政・企業連携、他必要な活動

電子個性通価 twitter 語録

時代を超えて点と点が繋がって何かが産まれるとジョブスの有名なスピーチにあるけど、電子個性通価もそう。初めての点は 5-6 才の時だった。向かいのお爺ちゃんからタバコ屋に行って黄色い包装の「いこい」を買うお使いをよく頼まれた。持って行ったら庭で作ったイチゴをくれた。

タバコ屋は近くだったのでお爺ちゃんも歩いて行けたと思うが今思えば子供と触れ合いがかったんだと思う。貰ったイチゴは時々、ハサミ虫がいたり虫が食いの穴が空いてたが「虫が食わんマズイもんは人も食わん」と言って笑った。いつしか僕もタバコ屋のお使いを心待ちにした。

次の点は中学卒業の春休み(小学校 6 年組は纏まりがあり先生交えてよく遊びに行った。)先生の引っ越しがあるというので、皆んなで手伝った。お疲れさんと出た先生の握ったオニギリと漬物の味は最高だった。引っ越した後も、時々遊びに行っては、手作りのご飯を食べた。

ご飯をよばれてばかりじゃ悪いと何か手伝う事ないかと後片付けや重いもの運んであげたりしたなあ。人は支えあったり励ましあって生きる事、認め合って協力する事は素晴らしいと子供心に確信したものだ。

しかしその後、日本は核家族となり、都会に出て行ったサラリーマンは企業戦士となり高度

成長の波に乗って(欧米人と比べて腸が数倍ある農耕民族には相入れない) お金中心のグローバルスタンダードとやらの巻き込まれていった。結果何が残ったのか？

そういう味気ない社会で自身もサラリーマンに席を置きながら、そのストレスをバンド活動やサーフィンチーム結成で紛らわす日々が続いたが、その後に次の点は来た。サラリーマンをドロップアウトして独立、ほどなくして日本一のコンサル先生と仕事をする事に。

コンサル先生は目に見えない理念共鳴と言う領域を深くえぐる天才。今でも自身の思考の核となっている。この時コンサル先生の外部ブレインだったのが後の電子個性の発明者 U ちゃん。MAC を操るクレバーな頭脳はモノが違っていて感じ。後々の点と点を繋げた出会いとなる。

次の点は全国流通情報ネットプロジェクト。月に一度上京し来るべき高度情報社会についての実践ゼミに出席する。まだインターネットもない時代の情報戦略 CIO の育成。専用端末をネットワークして必要な情報が必要な人に無理なく伝わる流通の仕組みがテーマだった。

電子個性通価に行き着く道は、いろんな点と点の繋がりがある。次の点は NTT が開発した文字図形放送。この回線を利用して日本初のオークション、郵貯オンラインを使ったネット通販(カタログを併用した)の全国展開。でもインフラの脆弱さは何と言ってもネックだった。

汎用端末でも通信料の高さが何と言っても壁だった。良い情報をそれを必要な人に無理なく伝わる仕組み、いろんな会社がチャレンジしたがコンテンツの貧弱さも含めて消えて行った。先の VTX の通販会社は決済システムで活路を見出したが WTC のテロで投資が引いて一瞬に沈んだ。

何を売るにしても全て絡むのは決済システム。生産性のない銀行やサラ金会社が儲かる世の中ってどうみてもおかしい。たかが決済、されど決済。決済って互いの思惑や期待をプラスマイナスゼロにし満足させる数字遊びなんだよね。

1999.2 i モードが初めてインターネットに接続した。過去のいくつかの節目の点が繋がり立体イメージへと進化した瞬間だった。動き回るのが人、モバイルなのです。必要な情報が必要な人に相当の価値を以っていつでもどこでも伝わるインフラはその後加速度を増す。

同じ頃、エンデの遺言、時間預託等を知り、地域通貨の代表的なメーリングリストのゲゼルに参加した。地域活性化や触れ合いを求めて全国で地域通貨が広まった。でも広がりから初めから閉ざされ手間や時間コスト、中身に限界、進化過程のインフラと言う問題が山積した。

その中でも電子個性通価への立体イメージができたのが E 社だった。E 社は電子ポイントの利用法として主に物販の流通を定期イベントを通してやっていた。私も利用者として携帯の MY 口座から販売者の口座へ携帯を使ってポイントを送金した。斬新で面白いと感じた

が、。。

電子個性通価の直接のイメージとなった E 社、携帯端末でポイント口座がその場で増えたり減ったりするのは現金と同じ感覚を持てた。今、目の前にある商品は携帯の MY 口座にあるデジタル通貨でしか手に入らない。問題のポイントは円で購入する事しかできない。結局は金集めのオマケなんだよね。

電子個性通価の目的は人を認め活かし助け合う生きる希望と夢を持てるコミュニティーライフライン。失敗した E 社とは対極にある。しりすぼみになった地域通貨は商売人側からの発想。いま人気の SNS は表面的な繋がり、現実とのギャップ、自慢話の場で終わっている。

今までの色々な仕組み、システムの良い所を取り入れた絆まで深めるコミュニケーションツール、それが電子個性通価。フェイスブックが日常に使われる意識になり、そして回線速度が上がりスマホがシェアをあげて来た今、機は熟したのです。

電子個性通価、感動の活かし助け合いポイントの本質は今迄の市場にない市場の創造です。常に価格がついて回る市場にあるモノ、サービスを利用するのに円が必要なのに対し、この市場は人と人の関係や価値観でそれを認定評価します。そこには円は不要で感謝や思いやりさえあれば、。。

結果、円がなくても価値を手にする事ができます。円と同等の機能も果たせるいう事では一種の通貨と言えとすれば、この通貨は意思、個性を持った通価(通じあう者の価値)なのです。皆さんの財布に収まっている円は何の意思も個性もなく、あるのは数字です。何でも変えられる便利な通貨です。

何でも変えられる便利な円は数字が全て、大きい数字は小さい数字を引き寄せ、何故か大きくなるのです。これは貨幣経済の意思です。よって人はその意思に染まり通貨を求め増やすようになりました。人と人をつなぐ価値の交換の手段が、人を見ないで数値を見るようになりました。

人と人の価値の交換手段だった通貨はいつしか形を変え社会を、人間関係を変えてしまいました。お金が全て、お金がなければ生きていけない、と。電子個性通価はその対極にあります。人と人の価値の交換に感動の個性をつないで、それを伸ばして夢の実現に向かう希望と勇気が生まれるのです。

交わる事による創造性、活かし合い助け合い、昔の大家族や村社会の絆を 21 世紀に蘇らせる SMS(ソーシャルマネーサービス)、SLN(ソーシャルライフネットワーク)です。

電子個性通価の交流経過をタイムラインで表示しよう。他の SNS と同じだけど見るのは呟きや自慢話や宣伝じゃない。日常的に行われる感謝交流の現実。フォロー先の財布の出し

入りを垣間見る事で真の人とおしの交流物語を学び、見せる事ができる。

相反する欲求。安定と変化、自己重要感と愛、これらをまとめて手に入れることができるのが電子個性通価。そして、本当の人間の充実感は成長と貢献。電子個性通価は貢献しながら成長する。成長するから貢献できる。

電子個性通価が成り立つ理由は？

簡単だよ！人はありがたうって言われたい、死んだあとも言われ続けたい、そしてみんなの記憶の中に生き続けたい。若い時は力もないし未熟だから親を始め、周りに迷惑をかけながら成長していく。大人になってイイ年になると、その借りをなんらかの方法で穴埋めし、できればプラスにして、ありがたうと言われる人生にしたい。それは人類共通の個性。

心と心のやりとりは履歴となって、何時でもその時の感動を後世に対し伝え続けサイバー上では永遠に生き続けます。噂を聞きつけた後世の人や子孫が、命日には供養ポイントをチャリ〜ん。

あの世に行ってもポイントは増えるのです。それは徳積ポイントなので、霊界でも称えられる存在です。数百年、いや数千年の時を越えてコミュニケーションできるのです。

電子個性通価、感動の活かし助け合いポイントの本質は今迄の市場にない市場の創造です。常に価格がついて回る市場にあるモノ、サービスを利用するのに円が必要なのに対し、この市場は人と人の関係や価値観でそれを認定評価します。そこは円は不要で感謝や思

いやり色の通価どおしが、。

結果、円がなくても価値を手にする事ができます。円と同等の機能も果つと言う事では一種の通貨と言えるとすれば、この通貨は意思、個性を持つのです。皆さんの財布に収まっている円は何の意思も個性もなくあるのは数字です。数字の範囲でしか交換できない通貨です。

「奪い合えば足らぬ、分け合えばあまる。」(相田みつを)

和を以って貴しとなす。これぞ日本の原点。共助社会を個性で拓く電子個性通価。共助社会が共助世界になる時、世界の争いはなくなる。

電子個性通価は通貨格差のない世界共通人徳通価。徳ある民のネットワークが政治をリードする。この中からリーダーが育ち争いがなくなり世界は豊かに、ひとつになる。

電子個性通価は人間愛を育みます。人と人との触れ合い、共感、生き様を後押し演出し、称賛し、ひいては世界を平和に導きます。真の歴史を創り語り継がれる人類の格向上ツールです。

株価は将来をみてプラスに転じるが、個性ポイントは、将来を見込まれながら他人の個性に依存するとマイナスに転じる。それが、見込み違いでないことを証明する為、企業が業績をあげて配当をするように、自ら個性を磨き社会に還元しないと、末代迄笑物になります。み

んな見とるぜよ！

マイナスがやがてゼロになり、プラスに転じて人生を終える時、その個性は尊敬の対象となり、これ又 末代迄語り継がれるでしょう。

本部からはバーチャル銅像を電子個性戒名と共に称え賞します。そして電子空間のなかで永遠に語り継がれ、時空を超えて個性が真の歴史の中で生き続けるのです。ナンマンダブ。

アイデアの数だけオンリーワンのモデルが誕生するっていいね。しかも一つのネットワークのブドウの房は、その大きなブドウの木に実る他のブドウの房と横で繋がる。葡萄園に立つ葡萄の木達は、言語(国)の数だけあり大地の下では根っ子で繋がる。

個は全体の為に全体は個の為に。貴業界はどんな電子個性通価ネットワークモデルをあためますか？

世界を動かし歴史を作ってきたのは、国や政治家でなく意図をもった国際金融資本。その最大の関心事は各国の中央銀行を掌握し通貨発行権を握り、政府に借金をさせるかにあり、それによって世界を支配してきた。

電子個性通価は個人の思いやりと価値観と信頼関係のある相手との合意で、個人が自由に発行する通貨なんです。

西洋資本主義が本来の価値交換ツールのマネーを操り、手段が目的となり数字を追いかける富の奪い合いが戦争ビジネスに発展。人間本来は生まれながらにして豊かなのです。互いを尊重し支え合う慈愛の気持ちを失わなければ。日本人の中にその心は宿っています。日本人の志命はそこにあり。

軍事力、政治力のない敗戦国、日本の円は到底世界の基軸通貨にはなりえないが、善なる心の喜軸通価なら日本から世界へ発行できる。

これこそ日本人が、日本国が自信を取り戻し 世界をリードする和と慈しみの精神による」ICT 征服兵器。歴史はそれを Love&Peace ソフトパワー of JAPAN と呼ぶ、、、だろう。

助け愛、活かし愛、育み愛、励まし愛を通じて
褒め文化を広げていく
感動のコミュニティ通価システム

全ての業種に通用する心の時代の デジログなマーケティング政策

これはマーケティングの
枠を遥かに超えた
人類のテーマであり
新しい共通言語だ！



成熟する国家に求められる
下山の経済
明日を豊かに生きる人類の
心と智慧。

目次

●はじめに

- 1章 電子個性通貨とは？
- 2章 電子個性通貨への道標
- 3章 電子個性通貨の3つの目的と特徴
- 4章 電子個性通貨の現状と構築までの道程
- 5章 社会起業家(エリアコーディネーター)さまへ
- 6章 企業関係者さまへ
- 7章 キャラクターや特産物と通貨のコラボ作戦
- 8章 業界別電子個性通貨戦略的活用法
- 9章 電子個性通貨が拓く明るい社会
- 10章 日本のソフトパワーとリーダーシップによる世界平和と人類マインドの進化
- 11章 電子個性通貨の履歴は時代を超えて心を繋ぎ歴史を司る
- 12章 電子個性通貨まとめ
- 13章 140文字に込める 電子個性通貨Twitter語録
- 14章 応援寄稿を頂きありがとうございます
- 15章 電子個性とは何か？電子個性通貨との関係について

●終わりに

アマゾン kindle 版 <http://amazon.co.jp> から電子個性で検索



●著者紹介●
デジログ実践家
秀島 誠一
福岡県大牟田市出身
現在福岡市在住
大昔ミュージシャン、
昔ウインドサーファー、
いまデジログ実践家！



詳細は電子書籍 amazon にて公開中！

世界戦略と世界平和への作曲家、歌い手募集

ータイトル「電子個性通価っていいね」ー

1. 人は何を追い求めるのか？昔から変わらないのは奪い合い

限度を越えたら殴り合い 昔も今も変わらない 人間の欲望

このままで良いわけないよね！

2. 人は何を探し求めるのか？昔から変わらないのは憎しみ合い

限度を超えたら殺し合い 昔も今も変わらない 人間の相(さが)

このままで良いわけないよね！

(サビ) やってみようよ 活かし愛 助け愛 育み愛

もひとつオマケに 励まし愛 だから電子個性通価、個性通価 iyei

3. 世界はどこに向かっていくの？

グローバリズムの名をかりた限度越えの

競争、mony game、情報戦 昔も今も変わらない世界の歴史

繰り返して良いわけないよね！

4. 人は愛と安らぎを求めてるんだ！昔から探し続けてきた

love&peace 今ここから広げて見ないか！

昔も今も変わらない人間の善なる心 未来の子供に残したい！

(サビ) 微笑んで見ようよ 活かし愛 助け愛 育み愛

もひとつオマケに 励まし愛 だから電子個性通価 個性通価 iyei

エピローグ

1、電子個性通価に行き着いた道程

90年代初め、高度情報社会での全国流通ネットの構築をテーマとしたプロジェクトやインターネットの前のVTX回線による全国通販事業に関わっていた事がありました。

色々な理由で頓挫した悔しい経験から、なぜか？どうしたらできるのか？

という思考が頭から離れたことはありませんでした。

結論は、狭いエリアから深い穴を掘る、つまり一人のユーザーを完璧に満足させるシステムを作れば(地域戦略)、横(全国)にも広げられる。

人、もの、金、がない状態では「パートナー」、「収益」、「顧客」、「コンテンツ」を同時にクリアできる仕組みが必要だということでした。

そして15年前エリアにおける情報流通(情報が基点となり物事が動きモノや事が進み消費される)とコミュニティの関係づくりの地域システムの構築をテーマに向けて新たな実践が始まります。

必要な情報が必要な人へ無理なく安心して喜ばれて伝わる仕組みとは？

しかし、インフラの問題、ユーザーを満足させるコンテンツの蓄積の問題、それ以前に関連組織をどうするか？ 物流が関わる難しさをひしひしと感じました。

ある時、携帯から電子ポイントを送ってモノを売買するという場に遭遇しました。価値の交換の手段としてこれは使えると直感。イメージが広がった瞬間です。

後は価値をどうまとめるのか？そうこうしているうちに SNS が大流行、価値とは人そのもの、人の中に価値あり、そしてその価値をいかに引き出し活かすか？ということで電子個性の特許も相まって、人の価値⇒個性⇒個性の価値付けと流通、交流⇒電子個性通価という今の仕組みが生れてきました。

昨今は、国家財政の悪化、国際間の緊張、低俗メディアの大衆コントロール、儲けるが勝ちのなんでもありの詐欺的商法、一人ひとりが疑心暗鬼となる殺伐とした社会に向かっており、今までのツケが一気に悪化してきた感じです。二人ののんきな子供の将来と日本がとても心配です。

電子個性通価によって、本来日本人の中に眠っているマインドが目覚め個人、地方、産業、そして日本の復活、ひいては世界の争いの終焉を日本人主導で実現できると確信しています。

2、アピールしたいこと

電子個性通価は机上のアイデアレベルではなく全て、今までの事例、経験の中から生れ積み上げた実践構想であり実現の為の具体的な施策があります。

3、研究内容にいたる回想

個人に関する情報の集積を個人自身が運用できる手段によってできた信用基盤を根拠とした、価値を評価し交換し合える“通価”を実現する。

広範囲な人の移動によってもはや国民や領土の認定すら曖昧な時代。

冷静に観察すれば、登記や社会的認証には技術的变化それに伴う社会的変化によって、すでに技術の観点から純粹に判断すると破綻しているものも多い。

多くの情報は電子化デジタル化されているにも関わらず、社会システムが対応できていない点が原因のものもある。これによって複雑に絡み合った機構を個別に修正していくのは、パラダイムシフトを起こすよりも難しいだろう。

この影響は当然、経済にまで及んでいる。その要が『通貨』だ。

金兌換から離れ、今では丸い金属や長方形の紙からさえ離れてきている。言い換えれば、物質から離れ、国あるいは政府が存在すると言う信用からも離れつつある未来がある。このような状況の下、個人と個人が価値を交換することが通貨の本質と考ええると、個人の存在を基盤とする通貨があっても不思議ではない。そう考えると、特に“人”に関する場合、『当事者学』的要素を取り入れる必要があると考えた。

そこで私は、ICTにより個人の存在を認定し、それを信用基盤とした“通価”システムを実現したいと志ざしている。“通価”は貨幣の通貨でなく通じる価値を運用するという意味の、造

語です。

その前段階として、仲間が平成 12 年度総務省所管、通信・放送新規事業助成金の採択を受け、『個人の存在を認定』の部分において特許を取得した。（平成22年特許成立）そして今回はいよいよ生活に根ざしたシステムを構築し、社会に提供したい。

テストシステムの設計概要はほぼでき上がっている。現在の ICT の状況から見れば、もはやそれほど難度の高いプログラムが新たに必要にならないかも知れない。確かに数式やプログラムは永遠かも知れないが、地球上で利用する限りは生命、環境の“今”の変化に柔軟に対応していく事が重要であると考えます。

この研究はコンピュータとそのネットワーク上の活動にとどまらず、実態のある人と人との交流をとらえたものにしたい。

この“道具”は、創発的な相互作用によって新しい道德にも通ずると考えている。それに触れた個人や社会の振舞いに、巨大な可能性が隠されていると確信しているからである。

一方、技術的課題として認識している点は主には以下のとおりである。

・システムの運用によってどんな問題点が浮かび上がるのか、創発なのか合成の誤謬なのか。何が起きるかわからない。というか、やってみないとわからないしやったらわかる事もある。

また、ここまでが完成形というものではなく、人の意識と合わせて常に変化していくものであると思う。課題だらけかも知れないが、可能なら、遊び心のある領域からブレークスルーしてみたい。

結びに代えて。

プログラム開発を担当してくれていた極めて優秀な仲間が病に倒れたことが、課題である事も伝えたい。すでに何年も挑戦し続けているが、国内では理解と協力者を得るためのスピードが鈍いのが悩み。

上記特許の出願時にシリコンバレーから出資の申し出があったが、当時の日本の法律の状況から交渉をこちらから断らざるを得なかった。(翌年商法改正)

なお当時は特許発明者のパートナーとして営業企画を担っていたが実用モデルなき状態にて前進出来なかった。アメリカとは大きく違う日本の現状に対し、人財とエネルギーの応援を強く希望するものです。

2015.6.24 秀島誠一

秀島 誠一(デジログ実践家) 略歴

福岡県大牟田市出身、福岡市南区在住

大昔ミュージシャン昔ウインドサーファー、今デジログ実践家！

地元高校卒業後上京大手電機メーカーに就職も2年で離職

1年のフリーターを経て大学入学も勉強はそっちのけでバイトと音楽に没頭。卒業後もミュージシャンを目指しライブ活動。

このままではダメだとコネで上場企業に就職し7年間普通のサラリーマン生活を過ごすも、多少の小金を貯めて情報産業を目指し 33 才で独立。

以後、25 年、異業種交流会運営、CIコンサルタント、ビジネス情報紙編集と執筆、流通関連プロジェクトや関連FCに参加。

インターネット時代になり情報活用&WEB構築支援、コピーライター、ネット販売等を手がけ現在に至る。

独立後 10 年間の数々の経験、失敗を土台に15年前

「ふれあい情報流通ネットICT構想」を本格スタート。

試行錯誤、紆余曲折の末、「電子個性通価」システムに行き着く。

趣味(これは昔)作曲、ベースギター、ウインドサーフィン

(これは今)キャンプ、音楽を聴きながら散歩

今後の計画

田舎にログハウスを建て、農耕しながら、バーチャルバンド活動

天命

電子個性通価を世に広めて世界の平和と笑顔に貢献する

関連サイト

電子個性公式サイト <http://www.realize.jp/kosei/>

電子個性通価公式サイト <http://shien-p.com/>

電子個性通価 facebook ページ

<http://facebook.com/denshikoseitsuuka>

デジログ実践家 秀島誠一 facebook

<http://www.facebook.com/digilohide>

デジログ実践家 秀島誠一 twitter

<http://www.twitter.com/digilohide>

最後の最後に音声(電子書籍を書き終えて)

<http://shien-p.com/koseilast.m4a>

※詳細は電子書籍「電子個性通価っていいね！をお読み下さい。

アマゾンより検索ワード「電子個性」

最後までお読み頂き有難うございます
只今募集中！！！！

電子個性通価システム導入企業、団体(先行予約受付中)

投資家

エリアコーディネーター(社会起業家)

次期CEO(創業メンバーとして)

技術エンジェルプログラマー(創業メンバーとして)

海外展開エージェント、プロデューサー

※自薦他薦問いません。よろしくお願いいたします。

ご意見もお待ちしています hide@shien-p.com

